

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンター住之江安立

作成者: 梶川 郁子

作成日: R6年 3月 22日

運営推進会議における評価実施日: R6年 3月 28日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営						
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A	研修、OJT、面談にて対応できるように意識づけを行っている。		
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	A	ボランティアの活用や地域活動の参加にて繋がりを大切に進めている。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	B	書面で意見の聞き取りを行い参考にしていく。		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	B	実施まではできていないが情報は集めるように努めている。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A	研修を重ねて理解を深めている。	B	ご本人の尊厳を守れるように宜しくおねがいします。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A	研修を重ねて理解を深めている。あざ等を確認した時点で話し合いをして、防止策を家族様へと報告を行う。	B	スタッフ同士でお互いに注意できるぐらいに研修を行い、防止に努めて下さい。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A	定期的に研修を行っている。		
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A	閉鎖的な状況な分、時間をかけての説明をしている。		
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A	コロナ禍により家族会が出来ていない。	B	書面会議の内容が少しでも反映に繋がるように宜しくお願い致します。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	B	フロアミーティング、ホーム会議で意見の聞き取りを行っている。		
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	B	不明点は就業規定などでの説明をするようにしている。	B	スタッフの皆様が向上心ややりがいを持てる環境を目指して下さい。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	B	OJT、個人面談にて状況把握に努めている	B	スタッフの皆様スキルアップしていく事が利用者満足に繋がると思います。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	B	情報収集を心掛けている。		
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A	利用者中心の支援、介助できるように研修を重ねている。		
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A	できる限り面会や外出をして頂き今までの関係性を途切れないよう協力している。		

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンター住之江安立

作成者: 梶川 郁子

作成日: R6年 3月 22日

運営推進会議における評価実施日: R6年 3月 28日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述
II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A	状況に応じてアセスメントを行いケアプランに反映、更新している。		
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A	状況に応じてアセスメントを行いケアプランに反映、更新している。	B	
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	B	介護記録の記載、申し送りの徹底にてケアプランへの反映、更新をしている。	B	
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A	状況に応じてアセスメントを行いケアプランに反映、更新している。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	B	安全を考慮しながら、利用者の状況に応じて近隣へ出かけたり、体操などを促して一緒に参加している。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A	連携をとり利用者の健康管理に努めている		
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A	MSWとの連携にて情報共有に努め、家族さまとの相談の上で早期退院を進めている。	B	医療との連携協力体制がスムーズにいくようにコミュニケーションを図って下さい
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A	医療、家族様と連携にて利用者が安全で望まれる生活をできる限り提供できるように努める。	B	
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A	マニュアルを活用した研修にて意識づけを図っている。		
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A	マニュアルを活用した研修にて意識づけを図っている。	B	顔見知りの関係作りが出来ていければ、連携に繋がると思います。

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンター住之江安立

作成者: 梶川 郁子

作成日: R6年 3月 22日

運営推進会議における評価実施日: R6年 3月 28日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述	運営推進会議における外部評価	記述
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A	お客様一人ひとりに合わせた声掛けを行っている。	B	一人ひとりの人格を尊重して思いやりのある声掛け対応を宜しくお願いします。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	B	お客様の日々の暮らしをその人らしくサポートするよう努めている。		
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	B	食事前後にもお手伝い出来ることはして頂き、その方が出来ることをして頂いています。	B	介護度が上がり出来ていた事も出来にくくなっていきますが少しでも参加できる機会、役割が持てるといいですね。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	B	毎食後に食事量を確認し、水分も都度接種を促し嗜好に合わせ対応しています。		
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A	毎食後口腔ケアを促すとともに歯科往診の際に再確認して頂いております。	B	歯は健康の入り口とも言われています。丁寧な口腔ケアを続けてインフルエンザ予防にも繋げて下さい。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A	便秘予防として乳製品を摂って頂いたり、水分量に応じて排泄の誘導をお客様ごとにお声掛けさせて頂いています。	B	個人のリズムやパターンを把握した排泄の自立、便秘の予防は精神面の安定にも繋がると思います。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	B	入浴を楽しんで頂くよう入浴剤を使用し気分転換を図って頂いています。	B	大変だと思いますが個々に沿った入浴支援はとても良い支援だと思います。
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A	お昼寝の時間をお客様の状態に合わせてお声掛けさせて頂いています。		
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	B	薬局との連携により薬剤師より各種情報を共有し対応しております。	B	引き続き管理体制に努め適切な服用を徹底して下さい。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	B	楽しみを持って暮らして頂くよう、お客様の趣味や特技を入居時に御家族より聞き取り対応しております。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	C	お一人おひとりでの対応はできていないが、地域の活動(喫茶)には複数名で参加させて頂いています。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	C	買い物の際に小遣い金にてお買い物を個々にして頂いています。		
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	B	お客様の訴えがあればお電話を使用して頂く事もありますが、ご家族より電話を受けることの方が多いです。		
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	B	季節ごとの壁面飾りや自室の場所がわかるよう表札をつけさせて頂いております。	B	五感を刺激して居心地の良い共用空間作りにこれからも励んでいって下さい。

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンター住之江安立

作成者: 梶川 郁子

作成日: R6年 3月 22日

運営推進会議における評価実施日: R6年 3月 28日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)						
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	B	できる限りお一人に合やすよう心掛けていますが、入浴についてはお体の状態もあり毎日入浴して頂けていない。		
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています	A	ご友人との面会や暮らしの情報を入居の際に聞き取りを行い対応しています。		
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています	A	かかりつけ医が近隣(お隣)におられ医療面でのサポートを提供して頂いています。	B	医療と連携して体調管理に取り組んでいる。
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています	A	入居時にアセスメントを行い定期的に更新しています。		
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができています	A	ご自宅より家具屋小物を持参されたり、化粧品や嗜好品等も使用されています。	A	自室が落ち着く空間になるように色々と工夫されていると思います。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができています	A	希望があれば家族様付き添いにて自由に参加して頂いています。		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができています	A	ご本様に寄り添いできる事、できない事の見極めを行い、支援しています。		
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができています	B	利用者さま同士の会話に介入にて雰囲気作りを努めています。	B	人から頼られたり、喜んでもらえる生きがいにも繋がります。持ち味を見つけて引き出し、発揮できるといいです。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができています	B	ほほえみカフェの参加やボランティアの活用にて交流を深めています。		
49	総合	本人は、このGHIにいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができています	A	スタッフ、家族さま、地域の皆様と協力にて本人さまにとって安全で安心できる生活を提供していくよう努めています。	B	色んなイベント参加で楽しみや穏やかな生活ができるといいですね。

総評

現状におけるご指摘事項・事業所の課題

<p>コロナ感染症が5類になったこれからは面会や外出も緩和になり、イベントやこの運営推進会議も開催できるようになったので進んで地域と連携を行い、利用者さまにとって安全で穏やかな生活が送れるような運営を進めて下さい。</p>	<p>スタッフによってスキルの違いが顕著になっていて、ベテランスタッフの負担が大きくなっている。 色んな研修を重ねて、スキルアップにてケアの質を上げる必要がある。</p>
---	---

参加者サイン欄
